

傷ついた果物は売りものにならない？

江戸川区立南葛西小学校 五年 村上 優

東京のスーパーでは傷のついていない、美しい果物しか売っていない。傷ついた果物たちは、捨てられてしまうのか…。

私は小さいころ青森県に住んでいた。小学一年生で初めて親せき宅を訪れたのだが、そこではりんごやぶどう、桃などを育てていた。木からもいでそのままりんごにかじりついたら、とてもかたくて歯ごたえが良く、ほっぺが落ちそうになった。色や形が悪かったり、落ちて傷ついたりしたりりんごもどれも美味しかったことを覚えている。しかし親せきのおじさんは、

「傷ついたりりんごは売りものにならねーんだじゃ」

と言っていたのだ。当時はなんとも思わなかったおじさんの言葉だが、台風でりんごやみかん、桃などの果物が落下し大量に捨てられるというニュースを見た時に急におじさんの言葉を思い出しドキッとした。落ちたり傷ついたりしたりりんごでも十分美味しかったな。食べられるのに捨てられるのはもったいないな。見た目だけで判断してほしくないな。災害に負わずに果物を育ててくれていた農家さんに感謝だなとしみじみ思った。

キレイな果物しか食べたことのない人たちもたくさんいると思うが、そんな人たちにも傷がついたり落下したりした果物もぜひ食べてみてほしいと願う。そうすればどんな果物も農家さんたちがいかに愛情を注ぎ、大切に育てられてきたかがよく分かるだろう。形や色は関係ない。どんな果物でも美味しいと。そして、農家さんたちにも、勇気を出して傷ついた果物も市場に出してみてほしい。そんな果物をもし見かけたら、私は絶対においしく思う。